

# みどい生活の楽しみ⑩

## ～日本の心 ニュージャパニーズ・フローラルスタイル～

花を活ける仕事に携わりながら、私は感動の場面によく出会います。そして、花を飾るという行為は大変面白いものです。花をさまざまな資材と組み合わせて、限りなく花を造形していきます。造形活動のプロであるフローリストは、造形のテーマはおお客様の目的に合わせて位置付けし、表現していきます。だれかにプレゼントする花束であったり、部屋を飾るアレンジメントであったり、花嫁の幸せを彩るブーケであったり、二人の永久の愛を包みこむ会場装飾であったり、さまざまなシーンを演出し、お客様に喜んでいただきます。それらをつくり上げるテクニックは、フラワーデザインという西洋から来たテクニックが主です。

使用する花も洋花が中心になることが多く、スパイラルテクニック、ワイヤリングテクニック、カラーテクニックなどを駆使して、見事に華やかに仕上げます。近年グローバル化してきた社会で、トレンドといわれるデザインの情報が簡単に入手でき、商業ベースに乗って、ますます日本のフローリストは、フラワーデザインの腕を磨き上げていきます。



しかし、残念に思うことがあります。それは外国に行ったときのホテルの装飾や、花屋の店先でディスプレイされた花束やアレンジメントのデザインやテクニックが、同じであるということです。グローバル化になればなるほど、国際的な感覚として独自のお国柄を發揮すべき必要性を感じます。日本らしさを感じるデザインがあって然り、今見直しの時が来ているように思います。時としてフラワーデザインであったり、華道であったり、日本古来の伝統文化を見失うことなく、日本人独自のバリエーションも広げたいものです。



例えば、花を活けるという領域で、日本人の美意識と、自然を愛し自然との共存を大切にする日本人の自然観から生まれた素晴らしい自然美の造形があります。卓上に直に生えているように切花を盛り付け飾り、自然風景を表現します。これが『じかもり』です。『ジャパニーズフローラルセッティング』と呼ばれて世界に注目されました。これは造園、華道、盆景などの手法が本流となり、日本の土壌に培われ、自然と一体化するために形成された日本独自の卓上装飾で、アートの価値が高いものです。明治の鹿鳴館時代や宮中などから始められた歴史の浅いものですが、実は根底に流れる古からの日本の心として、奥の深いものがあります。



私が担当するフラワーデザインを専攻する学生には、必ず華道と造園の実習を受けてもらいます。そして切花の室内装飾として卓上造園、床造園を表現します。男結び、竹垣作りなど、日本庭園とフラワーデザインのコラボレーションは、日本の美学と西洋の美学との共演ということで、少々勇気が必要ですが、出来上がりは程よいエキゾチックな空間をつくり出します。得意技として極めてみれば、楽しくやりがいもあり、そして『ニュージャパニーズ・フローラルスタイル』の誕生です。

竹越美智子（大阪テクノ・ホルティ園芸専門学校）